

した。この方は詳細な産地を示さない、それは自然保護が守られないからである。日本海側方面では京都府丹後国大江山に分布するが、それでも貴重な分布である。

○クログガネモチ *Ilex rotunda* Thunb. 山陰地方では松江市に大木があったが枯れた。鳥取県米子市城山麓に 1 本の雌木があるが、その南 16 km の西伯町福成の民家に付近から取ってきたと思われる雄木の庭木がある。その南 3.5 km の同町法勝寺の長田神社々叢に 2 本の雌木があったが、1 本は道路改良の犠牲となってしまった。この 3 本をつないで見るとおよそ南北に 1 線をなし東経 133°03' にあたり、この 1 線から東方には自然分布を知らない。もっとも倉田悟氏は原色日本林業樹木図鑑 第 2 巻、1968 年に若狭国を産地にあげたが、それでも珍しい分布である。

○クラガリシダ *Dryotaenium miyoshianum* Makino 鳥取県三朝町小鹿溪のミズナラの樹幹上に産することが坂田成孝氏により鳥取大学生物研究会エンブリオ 3 巻、1960 年 (騰写版) に見え、同行の当時鳥大農学部林科に在学中であった藤尾正博氏からその標本の恵与を受けた。最近神戸大学の中西哲氏分担の日本自然保護協会調査報告第 32 号 氷ノ山・後山・那岐ノ山国定公園候補地学術調査報告 (1967 年) III 『音水および赤西溪の群落とフロラ』の項で、クラガリシダがこの地域に分布することを明らかにしたが、この地域はあまり離れておらず自然環境もよく似ている。

(岡山県津山科学教育博物館 生駒義博)

○*Argyreia formosana* (山崎 敬) Takasi YAMAZAKI: *Argyreia* in Formosa

台湾からはヒルガオ科植物の固有種として、新属 *Parasitipomaea*, や *Ipomoea rotundifolia* Hayata などいくつかのものが報告されている。しかし前者はノアサガオがからまった常緑樹の枝でかかれたもので、2 つの植物の混合であるし、後者は熱帯に広く栽培されている *Ipomoea crassicaulis* であるなど、台湾のヒルガオ科植物はいちじるしく混乱している。これらはいづれ訂正しなければならないが、台湾のヒルガオ科植物の学名を整理すると固有種は殆んどなくなってしまふ。唯一の固有種は *Argyreia tomentosa* Yamamoto であるが、先行名があるので新名を必要とする。このことはすでに石上晃氏がきがついていて、東大の標本の上に手記しているのでその名を採用する。

Argyreia formosana Ishigami, nom. nov. in shed. Herb. Univ. Tokyo.

Ipomoea tomentosa Yamamoto, Suppl. Icon. Pl. Formos. 1: 12, fig. 20 (1925), non Pohl (1869)—*Argyreia obtusifolia* (non Lour.) Nemoto, Fl. Jap. Suppl. 610 (1936) ut *obtusiloba*.

Distr. Formosa: Takao, Ako.

(東京大学理学部植物学教室)